

5 私立大学について

(1) 私大入試スケジュール (2023 年度予定)

1 学 期	4 月下旬	大学・短大入試説明会 学校推薦型選抜（指定校・佛教大学 MU 入試を含む）説明会 総合型選抜（AO 入試）説明会
	5 月下旬	共通テスト模試
	6 月初旬	大学入学共通テスト説明会 1 受験希望者調査
	6 月中旬	大学別説明会週間・小論文模試
	7 月中旬 終業式 夏季休業	総合学力記述模試・実力診断テスト オープンキャンパス等説明会参加
2 学 期	8 月下旬 始業式～	学校推薦型選抜（指定校）・特別推薦の一覧表公示および募集開始 学校推薦型選抜（指定校）・特別推薦応募願の配布（担任から希望者へ）
	9 月 1 日～	総合型選抜受け付け開始
	9 月初旬～	学校推薦型選抜（指定校）・特別推薦の募集締め切り 1 次校内選考試験（全日制・定時制・通信制で競合した場合）
		学校推薦型選抜（指定校）・特別推薦の第二次分の公示および募集
		学校推薦型選抜（指定校）・特別推薦（第二次分）募集締め切り 2 次校内選考試験（全日制・定時制・通信制で競合した場合）
	9 月中旬	学校推薦型選抜（指定校）・特別推薦受験対象者説明会 共通テスト説明会 2 受験案内配布・出願手続き
	9 月下旬～	進学模擬面接開始 共通テスト出願校内締め切り
	10 月中旬～	学校推薦型選抜（指定校）推薦出願
	11 月上旬～	特別推薦出願・学校推薦型選抜（指定校）入試 学校推薦型選抜（公募）出願
	11 月中旬～	学校推薦型選抜（公募）・特別推薦入試
3 学 期	1 月初旬～	一般選抜（前期）・共通テスト利用入試出願
	1 月 14 日・15 日	大学入学共通テスト実施
	1 月下旬～	一般選抜（前期）開始
	2 月中旬～	合格発表、以降、後期入試や 3 月入試のある大学も

※ 行事などにより日程は変更になることがあります。

(2)入試制度について

①学校推薦型選抜

学校推薦型選抜とは、「入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、学力試験や小論文、面接などを課し、調査書を主な資料の一つとして判定する」選抜方式のことで、指定校推薦・公募制推薦（特技推薦・自己推薦等を含む）等がある。

(ア)指定校推薦入試

指定校推薦とは、「大学（短大・専門学校）が高校からの受験者・合格者・入学者などの実績を考慮して、特定の高校を指定して推薦を依頼する」制度のことである。大学は推薦依頼した高校を信頼して、面接・小論文・調査書などで判定することが多いので、調査書の成績基準は高いのが普通である。また、専願が基本で他大学との併願はできない（佛教大学 MU 入試は併願可）。本校では、依頼があった大学等（昨年度の本校に対する依頼は後の一覧表を参照）について、2学期初めに募集を開始する。学習成績・生活態度・特別活動などを総合的に判断し、校内選考を経て被推薦者を決定する。校内選考の決定後は、進路変更は認められない。大学からの指定校依頼は毎年見直されるため、昨年度の一覧表は参考資料として見てもらいたい。（依頼が来ない場合や学部学科が異なることもある。）

(イ)公募制推薦入試

公募制推薦入試とは、「出願資格を満たせば誰でも受験できる」制度のことで、9割以上の大学が実施している。公募制推薦入試も一般選抜と同じように様々な形態がある。受験科目や課せられる科目数、調査書を点数化するのかわからないのか、入試得点を全科目等しくみるのかある科目のみを重点的にみる等の方式がある。また、大学の活性化に貢献してほしいという考えから個性型と言われる学生を確保するため、課外活動・ボランティア活動・地域社会活動などの実績、検定試験などを対象とした推薦形式もある。この中には「スポーツ推薦」等、出願時期の早いものもあるので注意を要する。

②一般選抜

一般選抜とは「高校卒業（見込み）者なら誰でも受験できる」制度のことである。調査書等の活用方法が募集要項等へ明記されている。選抜方式は、各大学・学部によって年々多様化してきており、複線入試と呼ばれている。その中には、試験日自由選択制・アラカルト入試・共通テスト利用入試などがある。一般選抜では受験機会が増加傾向にあり、同じく受験会場も新しく設置する大学が増加している。ただし、受験機会が多くあるからと言って多く受験すると受験費用が多くかかる。

(ア)試験日自由選択制

試験日自由選択制とは、「試験日が2日ないし3日間設定され、その中から都合のよい日を選択できる」制度である。

(イ) 3教科型一般選抜

私立大学の入試科目は、文系が「英・国・社」、理系が「数・理・英」の3教科が基本パターンである。2教科または1教科で受験できる大学もある。例えば、国語で「漢文を除く」「現代文のみ」のように限定されているなど、指示があることもあるので、入試科目の詳細まで確認するようにしたい。大学は「基礎学力のある学生」を求めており、受験生は、大学入学後の研究に備えて、学習を進め、学力向上の努力をしておくべきである。

(ウ) アラカルト入試

アラカルト入試とは、「同一学部・同一学科で異なる選抜方式の入試が行われる」ことである。その中で、「特定科目を重視する方法」を実施する大学は増加している。得意科目を申請させ、その科目の配点を高くする方法をとる大学もある。得意科目の申請をしなくとも、高得点した科目を得意科目とみなしてその科目の配点をさらに高くして合否判定する大学もある。自分にもっとも有利な方法で受験することが重要なので、どの方式を選ぶかじっくり考える必要がある。

(エ) 私大の共通テスト利用入試

共通テストを利用する私立大学は、多数ある。募集人員を別枠で設定し、共通テスト利用入試を行う場合もある。この場合、個別試験を課さず、共通テストの得点のみで合否を判定する大学が多く（個別試験を課す大学・学部もある）、その科目も私大志願者が無理なく受験できる3教科型が多い。

※共通テストについては、校内説明会でその詳細を連絡し、10月初旬に高校単位で一括出願する。（現役生は個人での出願はできない）

③ 総合型選抜（旧AO入試）について

学力だけではなく、受験生の大学・学部への適性や特技、資格、学習意欲などを総合的に評価する入試システムである。書類審査や面接に時間をかけて審査・選考され、出願・選抜方法は大学によって異なる。出願前にエントリーシートや自己紹介書の提出があり、6～8月にエントリー開始となる。調査所等の出願書類だけでなく、小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等、もしくは「大学入学共通テスト」などが活用される。